

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立緑が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	75人	国語B	75人
② 算数A	75人	算数B	75人
③ 理科	75人		

5 留意事項

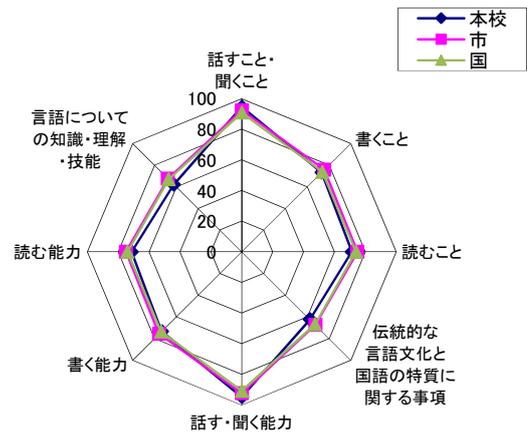
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立緑が丘小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

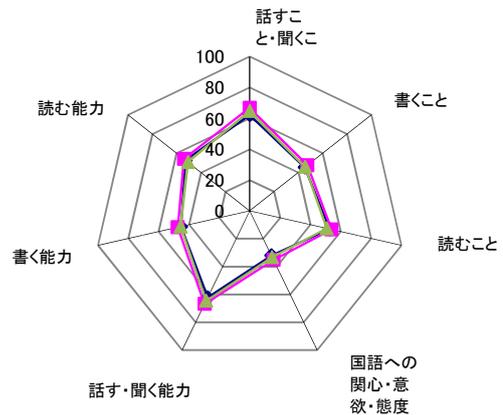
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	94.7	92.4	90.8
	書くこと	73.3	75.7	73.8
	読むこと	71.3	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	62.3	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	94.7	92.4	90.8
	書く能力	73.3	75.7	73.8
	読む能力	71.3	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	62.3	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	62.2	66.8	64.6
	書くこと	45.3	47.4	45.6
	読むこと	52.7	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	32.0	35.2	33.2
	話す・聞く能力	62.2	66.8	64.6
	書く能力	45.3	47.4	45.6
	読む能力	52.7	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

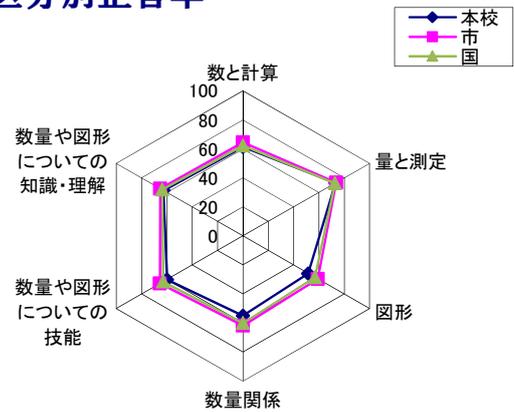
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、国語Aは全国平均より4ポイント高く、国語Bは2ポイント低い。</p> <p>○相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げて筋道立てて話すことがよくできている。授業の中で、話し合う活動を多く取り入れてきた成果であると考えられる。</p> <p>●質問の意図や、司会の役割を捉えることについて課題が見られる。</p>	<p>・今後も、小グループで話し合う活動を多く取り入れ、相手の考えを受けて自分の考えを述べる力を伸ばしていくとともに、学級全体の話し合いを通して、必要なことを質問したり、司会の役割を果たしたりしながら、話し合いの中での自分の役割についても学ばせるようにする。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、国語A、Bともに全国平均とほぼ同じである。</p> <p>○目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることがよくできている。作文の学習で、書きたいことを整理し、文章の構成を考える活動を丁寧に行った成果であると考えられる。</p> <p>●目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことについて、課題が見られる。</p>	<p>・今後も、作文指導に際しては、文章の構成を考えて書くようにさせるとともに、目的や意図を明確にすることで、よりわかりやすく書く力を身に付けられるようにする。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、国語Aは全国平均より3ポイント低く、国語Bは2ポイント高い。</p> <p>○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にして読むことがよくできている。叙述に即して正確に読み取り、自分の言葉で要点をまとめる活動を取り入れた成果であると考えられる。</p> <p>●登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることについて、課題が見られる。</p>	<p>・今後も、読み取りの際は、文章の叙述に従って正確に内容を読み取らせるようにしていく。物語の読み取りでは、内容の読み取りとともに、情景や人物の様子から、心情を読み取る力を身に付けられるようにする。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、全国平均より5ポイント低い。</p> <p>○日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うことがよくできている。新出漢字に合わせて、漢字の用法や慣用句についても調べる活動を取り入れた成果であると考えられる。</p> <p>●文の中における主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書くことについて、課題が見られる。</p>	<p>・今後も、自分で辞書を引いたり、慣用句を使った文章を書いたりして、日常生活で使われている言葉や慣用句などを使えるように指導していく。さらに、日記や作文を通して、主述の整った文章を書けるように、きめ細かく指導していく。</p>

宇都宮市立緑が丘小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

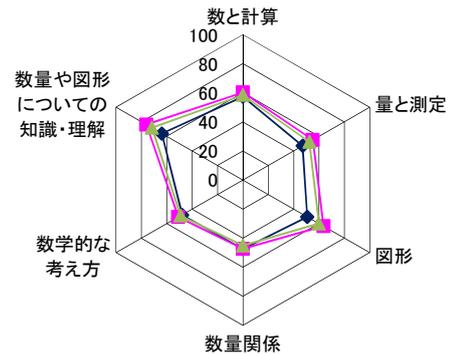
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	61.3	64.5	62.3
	量と測定	73.0	73.6	72.7
	図形	51.6	59.1	56.9
	数量関係	54.9	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	60.0	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	62.8	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	57.3	60.2	58.4
	量と測定	47.0	55.0	52.4
	図形	50.7	63.5	59.9
	数量関係	47.5	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	48.0	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	64.0	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

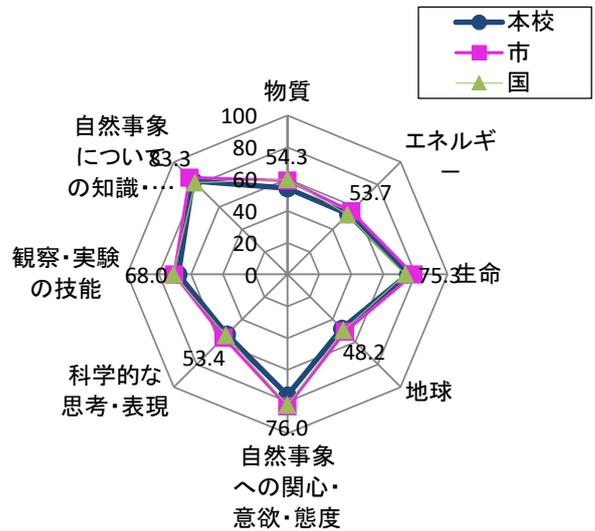
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、算数A、Bともに全国平均と比べ1ポイント低い。</p> <p>○問題場面における数量の関係を数直線上に表すことができている。授業中に数直線を意識して問題を解くように指導している成果であると考えられる。</p> <p>●規則性を理解し、その条件に合うものを見付けるという問題への理解に課題が見られる。</p>	<p>・今後も文章問題を解く時には、数直線などを用いながら立式の仕方を考えさせ、難しい問題を解決する力も身に付けられるよう指導の充実を図る。</p> <p>・図や表を用いたり、話合う活動を取り入れたりすることで、規則性や条件を見つけられるようにし、一人一人が理解できるようにしていく。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、算数Aは全国平均とほぼ同じであり、算数Bは5ポイント低い。</p> <p>○単位量当たりの大きさを求めたり、比べたりすることができている。復習を行う機会を設けたことが成果につながったと考えられる。</p> <p>●分度器を用いて180度よりも大きい角の大きさを求めることへの課題が見られた。</p>	<p>・何と何を比べているのか、何を求めているのかをはっきりと意識させながら、問題を解かせることで一人一人の理解を深められるようにする。</p> <p>・問題を解くだけでなく、実際に分度器で図するという作業をさせながら体験的に理解できるようにしていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、算数A、Bともに全国平均と比べ5ポイント以上低い。</p> <p>○円周率を求める式は理解している。プリントなどを用いて復習を行ったことが成果につながっていると考えられる。</p> <p>●図形の構成要素や性質を基に、角の大きさの和を求める問題への理解に課題が見られる。</p>	<p>・式を丸暗記させるのではなく、なぜそのような式になるのかを理解させながら授業を行うことで、より深い理解へとつなげられるように指導していく。</p> <p>・問題を解くだけでなく、実際に図形を並べて確かめてみるといった作業の時間を確保しながら指導していく。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、算数Aは全国平均と比べ5ポイント低く、算数Bは2ポイント高い。</p> <p>○棒グラフと帯グラフから適切に読み取る設問においては、理解できている。</p> <p>●百分率を求める問題への理解に課題が見られる。</p>	<p>・日常生活とのつながりを考えさせながらグラフの読み取りを行うことで、それぞれのグラフのもつ性質もともに理解できるように指導していく。</p> <p>・図を活用するなどして、目で見える形で百分率の意味を理解させ、身の回りで使われている具体例を取り上げながら授業を行うことで、より深く理解できるようにしていく。</p>

宇都宮市立緑が丘小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	54.3	59.0	59.8
	エネルギー	53.7	56.4	53.1
	生命	75.3	78.6	73.6
	地球	48.2	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	76.0	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	53.4	56.1	54.1
	観察・実験の技能	68.0	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	83.3	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	<p>平均正答率は、全国平均と比べ5ポイント以上低い。</p> <p>○2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ問題がよくできている。</p> <p>●食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ問題ができておらず、物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを理解できていない。</p> <p>●実験結果からいえることをまとめ記述することに課題があり、無回答の児童も見られる。</p>	<p>・何のために実験や観察をしているか、見通しをもって活動できるようにしていく。</p> <p>・実験・観察した結果から分かることやその理由を記述する機会を多く設け、自分の考えを自分の言葉で記述できるよう段階的に指導していく。</p>
エネルギー	<p>平均正答率は、全国平均とほぼ同じである。</p> <p>○電流の流れ方について、他者の予想を基に、検流計の針と向きを選ぶ問題ができている。</p> <p>●実験結果から電流の流れ方について、考え直した内容を選ぶ問題で課題が見られる。</p>	<p>・児童が主体的に問題を解決できるよう、自分の予想と実験結果を比べ、より妥当な考えに改善できるように、実験方法を明確にした上で実験を行っていく。</p>
生命	<p>平均正答率は、全国平均と比べ1.7ポイント高い。</p> <p>○骨と骨のつなぎ目を関節ということや人の腕が曲がる仕組みについて理解している。</p> <p>●生物の様子を観察するための適切な方法が身に付いていない。</p>	<p>・生物を適切に観察できるよう、生物の観察を行うときに、デジタルカメラを使うなど観察方法を工夫する。</p>
地球	<p>平均正答率は、全国平均と比べ1ポイント低い。</p> <p>○流れる水の働きによる土地の浸食について、理解できている。</p> <p>●大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだ理由を記述することに課題が見られる。</p>	<p>・実験結果だけで単に分析するだけでなく、自然の事物・現象を関係付けながら考察したり、言葉でまとめて説明したりする活動を取り入れていく。</p>

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問では、児童の肯定割合は100%である。これは、いじめゼロ強調月間やいじめゼロ集会などの活動を通して、いじめは絶対に許されないことであるという認識がしっかりと浸透してきた結果と考えられる。

今後も、道徳や学級活動等の学習及び、学校生活全般で、相手の気持ちを考え、思いやりをもって接することの大切さについて考えさせていきたい。

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問では、児童の肯定割合が78.7%で県の肯定割合よりも7ポイント高い。これは、家庭学習や自主学習の定着を図ってきた成果だと考えられる。また、「家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか」という質問では、児童の肯定割合が90.7%と、県の肯定割合よりも13.8ポイント高い。これに関しても、家庭で予習・復習を行う際に、授業の内容を意識することの大切さについて理解を深めてきた成果と考えられる。

今後も、家庭学習を継続して行い、内容や方法を交流したりするなど、工夫した活動を行ってきたい。

○「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」という質問では5ポイント、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という質問では2ポイント、県の肯定割合を上回っている。これは、普段の授業でのボランティアの方々の協力や総合的な学習の時間での地域に関する学習の成果と考えられる。

今後も、児童が地域の一員であることを自覚し、地域に愛着をもちながら様々な活動に取り組むことができるよう、ボランティアの方々の協力をいただきながら指導をしていきたい。

●「新聞を読んでいますか」という質問では、2ポイント、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」という質問では、6ポイント、県の肯定割合を下回っている。

今後は、授業で新聞やインターネットの情報を活用するなどし、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報に関するマナー等について指導していきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを分かりやすく表現する力の育成	全ての学年で、ペアやグループで互いの考えを伝え合ったり、相談したりする場を意図的に設けたり、自分の考えを書き表す活動を多く取り入れたりする。	「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」との質問に対して、肯定的回答が県の平均を上回っており、成果が出ていると思われる。しかし、肯定的回答は69.3%にとどまっているため、今後も自分の考えを発表したり書いたりする活動を多く取り入れていく。
基礎基本の確実な定着を図る指導	全ての学年で、基礎・基本の確実な定着を図るために1時間の授業の「めあて」を児童にしっかり提示し、授業の終末には「ふりかえり」を書く時間を確保している。	国語Aの学年平均においても、算数Aの学年平均においても、県の平均をやや下回っている。基礎・基本を定着させるため、1時間の授業で確実な習得を目指すとともに、家庭学習でその定着を図りながら、授業の中で、既習事項の復習を行っていくなど、基礎基本の定着を図っていく必要がある。
家庭学習の習慣化への指導	家庭学習のヒント集を家庭に配付し、低・中・高学年で目指す家庭学習の時間や内容を知らせている。また、学年に応じて、宿題以外にも自主学習に取り組むようにしている。	「家で、学校の宿題をしていますか。」の質問に対して、県の平均を7ポイント上回っており、家庭学習が身に付いてきていると考えられる。今後も児童の意欲の向上が図られるように留意しながら取り組んでいきたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、国語の漢字を書く問題や、分の中における主語と述語との関係に注意して分を正しく書く問題など、言語についての知識・理解に課題が見られる。 また、算数では、数学的な考え方については、県の平均とほとんど変わらないものの、数量や図形についての知識・理解については8ポイントも下回っている。特に、図形の問題では、算数A、算数Bともに、県の平均を下回り、課題が見られる。	復習により定着を図る学習の充実	国語では、当該学年で習う漢字については、日常的に漢字のミニテストなどを行い、覚えていない漢字を明らかにした上で練習を行い、定着を図っていく。また、定期的に50問テストなども併せて行い、間違えた問題については復習・練習を行い、習った漢字を覚えられるようにしていく。 算数では、具体物を使って学習を進めることにより、平面や立体の図形をきちんと認識できるようにしていく。また、単元の学習が始まる際、当該学年までに習ったことを復習し、基礎・基本の定着を図りながら学習を進めていく。